佐賀県保険医新聞

発行所
佐賀県保険医協会
佐賀市駅前中央1-9-45
(大樹生命佐賀駅前ビル4F)
電話　0952(29)1933
FAX　0952(23)5218
HP http://saga-doc.jp
hoken-i@star.saganet.ne.jp
購読料　1部　200円
送料込　年間2,400円
(会員の購読料は会費に含まれています)

医科研究会

COVID-19診療の実際と行政・医療機関・社会福祉施設間の連携

3月31日（金）、藤田次郎先生（琉球大学名誉教授・おもと会グループ特別顧問）を講師に、医科研究会「COVID-19診療の実際と行政・医療機関・社会福祉施設間の連携」をオンライン配信を併用して開催し、オンライン・会場合わせて35医療機関から36人の参加がありました。以下、参加者からの報告です。

藤田 次郎 先生

講演後には活発な質疑応答が行われた

右記の演題で琉球大学名誉教授である藤田次郎先生の講演を聴いた。ご存じのとおり藤田名誉教授は、当協会の学習講演会の講師を以前にも数回引き受けていただいたことがある。今回も多忙な中、コロナの感染がオミクロン株中心に変わって、これからどうなるのか興味深い話をしていただいた。

藤田先生は日本でコロナウイルスが流行し始めた当初から、沖縄県新型コロナウイルス感染症対策専門家会議の座長として、沖縄の新型コロナウイルス対策にまい進されてきた第一人者である。

ご本人によると、なにぶん新しい感染症であるのでどのような毒性があるのか、どの程度の感染力があるのかなど、ウイルスの本体を見極めるために1年間はマスコミに出るのは控えられたようである。

沖縄の新型コロナの感染流行は全国に先駆けて始まった。しかも人口10万人当たりにすると全国一の感染という激烈さだったので、藤田先生の肩にかかる重圧は大変なものであったと考えられる。

そのまま手をこまねいていたら、直ちに医療崩壊を招いてしまう事態であった。対応の1つとして、コロナの患者さんを収容できるよう施設を野戦病院のようにするため、体育館にベッドを早々に設置した。オミクロン株になったら、ウイルスの排出の多い期間が発症時からの5日間としたり、デルタ株等の時代と比べると明らかに毒性が低下して、患者の死亡率が低下していることを見極めた。

その後濃厚接触者の隔離期間を5日間に減らし、エッセンシャルワーカーの、特に医師や看護師の職場復帰を改善し、医療崩壊をくい止める効果にもつながっている。

オミクロン株の特徴として毒性は低下したが感染力は強いため、いったん低下した致死率が再上昇し始めた。高齢者施設などでのクラスターの多発である。

そこで沖縄では医師、行政、民間を含む対コロナの防御組織を作り、施設のコロナ感染者を全員入院ではなく、多くの人は施設療養とし、重症のケースだけ入院加療としている。高齢者施設を網羅する対コロナ感染対策の組織を作り、情報交換を案内するなど短い期間に急ピッチで対策したことも効果的であった。

さて話は変わるが、新型コロナウイルスの感染受容体はアンジオテンシン変換酵素であるが、オミクロン株は受容体との結合力が強く、いったん結合するとなかなか離れず、そのため咽頭壁の炎症で留まることが多い。肺まで達することが少なく、重症化することも少ない。またウイルス血症となって神経障害を起こすことも少なく、味覚・嗅覚障害も少なくなったものと考えられている。今日の新型コロナウイルス対応については沖縄で解明されて全国の先駆けとなったことが多いようである。

（佐賀市　山口　宏和）

通信環境の関係で一定時間音声が途切れてしまい、ご参加の皆さまには大変ご迷惑をおかけしました。誠に申し訳ありませんでした。

（事務局）

主な記事
・保団連第11回原発問題学習交流会……2面
・第14回九州厚生局との懇談会（質疑応答）……3面
・「マイナカードは管理できない」保険証廃止に伴う高齢者施設等への影響調査を実施……4面
・共済部だより「保険医年金申込締切迫る！」……6面

協会会員数
医科　648人
歯科　334人
合計　982人
（4月30日現在）

第42回 定期総会のご案内

市民公開講演会（入場無料・Web(Zoom)配信併用）

会場　ホテルマリターレ創世
佐賀市神野東2-5-15　☎0952-33-5511

日時　8月26日（土）

＊総　　会　15：00～15：50
・2022年度活動報告と2023年度活動方針
・2022年度決算と2023年度予算　他

＊市民公開講演会　16：00～17：30
講演会はWeb（Zoom）でも配信します。

＊懇　親　会　17：40～19：10
参加費…無料（配偶者の方も一緒にご参加いただけます）

演題
「迫る！日本の食料・農業危機
～食と命を守るために私たちができること～」

講師　鈴木　宣弘 氏
［東京大学大学院 農学生命科学研究科教授］

＊講演会はどなたでもご参加いただけます。Web（Zoom）でも配信します。
＊駐車場は数に限りがあるため、できる限り公共交通機関にてご来場ください（JR佐賀駅より徒歩5分程度）。
＊詳細は同封のチラシをご確認ください。

◇お問い合わせ・お申し込み先
佐賀県保険医協会事務局
TEL 0952-29-1933
FAX 0952-23-5218

曙

食事中に「クチャクチャ」と音を立てて食べる人のことを指す「クチャラー」という言葉があります。クチャラーの人と食事をした経験のある人は多いようで、ネット上では「そしゃく音がとにかく不快」「正直一緒に食事したくない」と辛辣なコメントがよく見られます▼一方、クチャラー側からは「指摘されるまで自覚がなかった」「やめるよう言われてもピンとこない」という声がある他、「子どもがクチャラーの食べ方をし始めたので早く治したい」「本人に自覚がないと治すのは難しいのでは」「そもそも治せるの？」など、さまざまな意見や疑問があるようです▼食事の際私たちは食べ物を何度もかんで細かくし、唾液と混ぜ合わせて飲み込みやすい形にして、喉へ送り込んでいます。この流れの中で食べ物をかみ切る音、一口大にした食べ物をかみ、さらに小さくする時のそしゃく音など多くの〝音〟が口の中で発生します。通常は口を閉じたままみ砕き、飲み込むまでに至るので、さほど大きな音にはなりません。しかし、口が開いたままになっていると食べ物をそしゃくしながら舌が唾液を混ぜる音が「クチャクチャ」に近い音として聞こえます▼口を閉じていれば、口の中での動きの範囲は狭くなりますが、口が開いたままだと活動範囲が広くなるため、おそらく音の大きさもその分、多少大きくなると考えられます。単純に口の周りの筋肉の衰えが原因であれば、「口輪筋」と呼ばれる筋肉のトレーニングを行う事で改善します。

（日本酒好き）